

## 授業改善推進プラン<外国語科>

### 外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<p>&lt;成果&gt;</p> <p>○英語の基礎において、正答率が目標値を上回った。特に知識・技能の観点において、目標値の平均値と比べ上回った。</p> <p>○聞くこと・読むこと領域において、アルファベットの読み（聞く）、日常会話の理解（聞く）、会話全体の理解（聞く）、単語の読みの内容は、目標値を上回った。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>●英語の活用、単語の意味理解（聞く）、アルファベットの書き（聞く）の理解</p> <p>●書くことの領域（記述の解答形式）、英文の完成、英作文</p>
---

### 外国語科における調査結果の分析

	学 年	（ ）は正答率が区の平均値を下回った内容	考察
内容別結果の分析	6 年	聞くこと (単語の意味理解、アルファベットの読み、 日常会話の理解、会話全体の理解)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単語の意味理解、アルファベットの読み、日常会話の理解度が低い。単語やアルファベット、日常会話の英文を聞くことに慣れていないように感じる。簡単な単語やアルファベット、日常会話の挨拶を繰り返し聞くことで、必要な情報を聞き取る力を育てていきたい。</li> </ul>
		読むこと (アルファベット・単語の読み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読むことの領域において目標値は上回っているが、アルファベットの読みに課題がある。アルファベットの読みを音声で聞き取った後、活字体で書かれた文字を識別し、選択する問題に誤答が多い。それぞれの問題で、目標値に対して正答率がやや低い。活字体で書かれた文字を識別し、その読みを理解できるようにしていく。 ※日頃の授業を通し、<u>似たような問題形式に慣れておく必要がある。</u></li> <li>●目標値は上回っているが、単語の読みに課題がある。</li> </ul>
		書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目標値や区、全国の平均を下回っているのは、英文の完成や英作文の項目である。特に地図を見ながら、目的地までの道順を正しく書いたり、身近な人について基本的な表現を用いて書いたりするような内容に課題がある。</li> </ul>
観点別結果の分析	課題のある観点領域 (知)「知識・技能」 (思)「思考・判断・表現」 (主)「主体的に学習に取り組む態度」		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「知識・技能」は、目標値をわずかに上回っている。</li> <li>●「思考・判断・表現」は、目標値を下回っている。</li> <li>●「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値をやや下回っている。</li> </ul>		

## 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 簡単な単語やアルファベット、日常会話の挨拶を繰り返し聞くことで、必要な情報を聞き取る力を育てる。
- 2 活字体で書かれたアルファベットを識別し、その読みを理解できるようにする。
- 3 地図を見ながら、目的地までの道順を正しく書いたり、身近な人の名前、続柄、できることを簡単な語句や基本的な表現で書いたりする指導を増やす。

## 外国語科の授業改善策

- 1 アルファベットや日常の会話・挨拶について、必要な情報を聞き取る学習を毎時間行う。
  - ・ALTの発音やデジタル教材の音源を使用し、日常生活に関する身近な会話・挨拶を聞き取る活動を毎時間必ず行う。
  - ・ペアやグループで発音練習をすることで、友達の発音する音や自分の発音の単語を聞き取ることに親しみをもてるようにする。
  - ・英語の本の読み聞かせを通し、日常生活や身近な単語を聞き取る力を高めていく。
  - ・歌や曲に合わせて体を動かすことを通し、動作化と共にリスニング力を向上させる。
  - ・休み時間にALTと交流する機会（イングリッシュカフェ）を設けたり、校内放送で外国語の音楽を流したりして、外国語に親しむ機会を増やす。
- 2 アルファベットの識別とその読み方の定着を図る指導を行う。
  - ・アルファベットの確認を授業の最初に毎時間取り入れることで、読み方と発音を強化する。
  - ・外国語の活動だけでなく、理科や算数、音楽の授業でアルファベットが出てきた時にも、文字と読み方に触れてもらう。（教科を横断した取り組み）
  - ・アルファベットの歌を通し、発音を高めていく。
- 3 目的地までの道順、身近な人の名前、続柄、できることを簡単な単語で書く練習を増やす。
  - ・中学校英語に向けて、英語表現を書くこと（ローマ字）に慣れ親しむようにする。プリントだけでなく、スクールタクトを利用することで、苦手意識がある児童の対応をしていく。
  - ・絵本やビジュアルブックを活用し、単語のつづりを視覚的にインプットしてから、書くよう（アウトプット）にする。
  - ・文字を書くデジタルコンテンツ（スクールタクト）を利用することで、アルファベットを書くことに慣れ親しめるようにする。